

シラバス参照

科目名	フレッシュマンセミナー（薬学）B
配当年次	1年次
開講期間	秋学期
単位数	1
担当教員	一色 恭徳(イッシキ ヤスノリ) 井上 裕(イノウエ ユタカ) 内田 昌希(ウチダ マサキ) 大山 翠(オオヤマ ミドリ) 木村 聡一郎(キムラ ソウイチロウ) 木村 光利(キムラ ミツトシ) 間 祐太郎(ハザマ ユウタロウ) 畑中 朋美(ハタナカ トモミ) 武藤 香絵(ムトウ ミズエ) 上田 秀雄(ウエダ ヒデオ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 水曜日 3時限 22－404

※	初年次教育科目 アクティブラーニング科目
授業の目的・目標	(1) 授業の概要 大学生活や社会生活に必要なコミュニケーションを体験学習を通じて学ぶとともに、薬学出身者の社会での活躍、薬剤師が活躍する現場の見学と情報共有、他の専門職との連携の大切さなどについて、講演の拝聴とグループ討論を通じて広く学びます。(PHP101JY) (2) 授業の目的 城西大学薬学部では、人々の主観的QOLを高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援できる人材育成を目指しており、薬学科では、将来、さまざまな医療者や介護・福祉スタッフと連携し、生活者に寄り添いながら地域社会に貢献できるようになることを目指します。フレッシュマンセミナー（薬学）Bでは、春学期に開講する薬学概論およびフレッシュマンセミナー（薬学）Aと実施内容を連携させながら、将来の自身の活躍の場をイメージしながら大学での学びの動機づけに繋がるようになることを目的としています。 (3) 修得できる力 企業や地域で薬剤師や薬学出身者が活躍する場面、患者の気持ち、他の専門職種との連携（多職種連携）の大切さを習得します（知識・理解）。併せて、コミュニケーション力や医療・健康に関する情報の読解力を習得します（汎用的技能）（態度・志向性）。(2023年度以前入学生 DP1〇、DP2〇、DP3〇、DP4〇、2024年度入学生DP1〇、DP2〇) (4) 到達目標 本科目は薬学科の初年次教育科目として位置付けており、薬剤師や薬学出身者に対する社会からの期待、患者やその家族の思い、QOL向上に対して様々な職種が連携することの重要性、連携に必要なコミュニケーションについて体験型学習を通じて学び、将来の自分自身の活躍する姿を想像したときに、薬学生として取り組むべき事柄について考え、実践するための動機づけに繋がることを目標としています。 (5) 令和4年度改訂モデル・コアカリキュラムへの対応事項 ・本授業の「中項目」 B-1 薬剤師の責務、B-2 薬剤師に求められる社会性、B-3 社会・地域における薬剤師の活動 ・本授業で特に重要な「小項目」 B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム、B-1-2 患者中心の医療、B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任、B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション、B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療 ・本授業の基礎となる「小項目」 該当せず ・本授業が基礎となる「中項目」 F-4 地域医療・公衆衛生への貢献、F-5 臨床で求められる基本的な能力
準備学習等の指示	基本的に、講演会とグループ討論を組み合わせた授業スタイルとしているため、正規の授業時間外も利用した変則的な実施形態になります。最初に配付するスケジュールをよく確認してください。実施回ごとのグループ分けなどを掲示またはWebClassを利用して伝えるので、自分自身で必ず確認してください。あらかじめ各自で調査することが必要な事柄についてWebClass等で指示することもあるので、予習として準備をするようにしてください。事前調査の内容はグループ討論の際の資料として利用できるよう、準備するようにしてください。授業ごとに課題がありますので、授業の復習や自身の考えをまとめた上で課題に取り組むようにしてください。早期体験学習報告会のプロダクト作成等には、授業時間外の活動が必要になります。ヒューマンコミュニケーション授業で体験した内容は、日常の学生生活の中で実践するよう努めてください。授業ごとに1時間45分程度の予習・復習が必要です。
講義スケジュール	1 ヒューマンコミュニケーション・ユニット3-1（高塚、上田、間、武藤） ・人間関係を構築するために自己を見つめなおす。 ・挨拶や自己紹介を再考する。 →H25[A(3)①1)、A(3)①2)、A(3)①3)、A(3)①4)、A(3)①5)、A(3)①6)、A(3)①7)、A(3)①8)、A(3)①9)] 2 ヒューマンコミュニケーション・ユニット3-2（高塚、上田、間、武藤） ・身だしなみや言葉づかいについて考える。 ・人間関係の構築における“ストローク（存在価値）”の大切さを理解できる。 ・ストロークに対して肯定的に作用する言葉と否定的に作用する言葉を理解する。 →H25[A(3)①1)、A(3)①2)、A(3)①3)、A(3)①4)、A(3)①5)、A(3)①6)、A(3)①7)、A(3)①8)、A(3)①9)] 3-4 大学教育における適切な学修を身につけるために必要なスキルを身につける（読解力、論理的思考力）。（一色、大山） ・医療・健康に関わる新聞記事等から要点をまとめ、他者に説明するための文章を作成できるようになる。 →H25[A(5)①1)、A(5)①2)、A(5)②1)、A(5)②2)、A(5)③1)、A(4)4)] 5 早期体験学習報告会（内田） ・病院、薬局、ドラッグストア、製薬企業などの見学により得られた見聞を発表用プロダクトとしてまとめ、他者と情報共有する。 ・他者の発表をもとに、自身が見学した施設等との相違点を見出し、理解することができる。 →H25[A(1)①1)、A(1)②1)、A(3)①8)、F(1)①1)、F(1)①2)] 6 薬学出身者の活躍の場1（木村聡、上田） 企業の医療情報担当者（MR）として活躍する薬剤師および薬学出身者の講演を拝聴し、その時点での職業人としての自分の将来像をイメージし、そのイメージについての理由付けを考えることができる。 →H25[A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②5)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)4)、A(4)5)、F(1)①1)] 7 薬学出身者の活躍の場2（木村聡、井上裕） 企業の研究開発部門で活躍する薬剤師および薬学出身者の講演を拝聴し、その時点での職業人としての自分の将来像をイメージし、そのイメー

	ジについての理由付けを考えることができる。 →H25[A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②5)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)4)、A(4)5)、F(1)①1)] 8 患者およびその家族の思いと治療に携わる立場1(木村聡、木村光、上田) 重大な疾病を患っている患者さんおよびその治療に直接携わってきた医師の講演を拝聴し、患者やその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解できる。 →H25[A(1)①4)、A(1)①6)、A(1)①7)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(2)①1)、A(2)①3)、A(2)③1)、A(3)②1)、A(3)②2)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)、F(1)①1)] 9 患者およびその家族の思いと治療に携わる立場2(木村聡、木村光、上田) 重大な疾病を患っている患者さんやその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解したうえで、医療人・薬剤師として患者やその家族の思いに寄り添うために必要なことは何かについて他の専門職を目指す学生とともに討議できる。 →H25[A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)①4)、A(1)①6)、A(1)①7)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(2)①1)、A(2)①3)、A(2)③1)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(3)②1)、A(3)②2)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)、F(1)①1)] 10 ヒューマンコミュニケーション・ユニット4-1(高塚、上田、間、武藤) ・聞き手の気持ちを考えて対話することができる。 ・話し手の気持ちを考えて対話することができる。 ・人との対話の中で情報の授受をする際に大切なことが何かを理解できる。 →H25[A(3)①1)、A(3)①2)、A(3)①3)、A(3)①4)、A(3)①5)、A(3)①6)、A(3)①7)、A(3)①8)、A(3)①9)] 11 ヒューマンコミュニケーション・ユニット4-2(高塚、上田、間、武藤) ・他者の気持ちを受容することの大切さを理解できる。 ・相手のために行動するとはどういうことかを理解できる。 →H25[A(3)①1)、A(3)①2)、A(3)①3)、A(3)①4)、A(3)①5)、A(3)①6)、A(3)①7)、A(3)①8)、A(3)①9)] 12 医療・介護・福祉サービスを受ける立場と提供する立場1(上田、木村聡、木村光、井上裕) 医療や介護における“ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を理解できる。 →H25[A(1)①4)、A(1)②6)、A(4)1)、A(4)2)、A(4)3)、A(5)①1)] 13 医療・介護・福祉サービスを受ける立場と提供する立場1(上田、木村聡、木村光、井上裕) 医療や介護における“ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を踏まえ、生活者に寄り添った医療人としての連携の在り方を他の専門職を目指す学生とともに討議できる。 →H25[A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)①3)、A(1)②2)、A(1)①4)、A(1)②1)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)1)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)]
教科書	必要に応じて資料等を配布する
参考文献	・IPWを学ぶ 利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携(中央法規) 埼玉県立大学編集 ・保健・医療・福祉のための専門職連携プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント(ミネルヴァ書房) 柴崎智美／米岡裕美／古屋牧子 編著
授業の方法	体験演習(40%)、講演会(30%)、グループ討議(20%)、プレゼンテーション(10%)の形態で実施します。体験演習やグループ討議では、与えられたテーマについて自身で調査した資料、他者の発言、自分が感じ取ったことなどに基づいて議論を展開するアクティブラーニングとして実施します。
成績評価方法	授業への取り組み状況(60%)、課題提出物と発表用プロダクト(40%)に基づいて総合的に評価します。形成的評価として、薬学科ホームページ記載の「薬学科のルーブリック評価」のうちルーブリック番号「1」「3」「4」「6」を使用します。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー参照
居室	一色 恭徳(22-505) 井上 裕(22-501) 内田 昌希(21-707) 大山 翠(21-613) 木村 聡一郎(21-712/718) 木村 光利(21-620) 高塚 人志(客員教授、外部に所属) 間 祐太郎(21-712/718) 畑中 朋美(21-616) 武藤 香絵(21-301) 上田 秀雄(21-715)
ホームページ	
その他特記事項	本科目は初年次教育科目の一つです。また、本学独自の内容を含み、「健康」や「地域連携」に関して深く学ぶ機会を提供します。H25[SBOs]が記載されている項目は、文部科学省の改訂モデルコアカリキュラム(H25)に準拠した項目です。
添付ファイル	